



秋田県五城目町

みんなの町議会



目次

- 12月定例会の経過・年頭のあいさつ..... 2
- 臨時議会・全員協議会 3
- 常任委員会の焦点 4～5
- 一般質問に8名登壇 6～14
- 陳情・請願・議員研修報告 15
- あれ なんとなったべが！ 16～17
- 楽しんでます・がんばってます 18

No.133

2018年1月1日

新春の五城目城を望む

2018

あけまして おめでとうございます



議会の経過

12月定例会は12月6日から12日までの7日間の日程で開かれた。

初日、渡邊町長は行政報告で「先の臨時会において報告したとおり消防職員による不祥事が発生したことを改めてお詫びし、職員一同襟を正し、町民の信頼回復に努める」と述べた。

2日目からの一般質問では、近年では最も多い8議員が登壇。介護サービス、終活支援、朝市plus、移住定住、小学校建設、除雪、災害対策、がん対策などを質問した。

3日目は当局より、平成29年度一般会計・特別会計補正予算、悠紀の国五城目の指定管理者選定、斎場の指定管理者選定など13件の議案が提出され、各常任委員会で審査を行った。

最終日、総務産業常任委員長への報告に対する質疑で、「五城館」の指定管理者を（株）あつたか五城目とする議案審査に同社の役員を務めながら加わった議員がいるとの指摘があった。これを受け同委員会では再審査を行い、指摘された議員

を*除斥し改めて審査、採決の結果全会一致で可決すべきとした。

各常任委員長報告の後、全議案を可決した。また陳情5件と請願2件を採択、委員会提出議案7件、議員提出議案1件を可決し閉会した。

除斥（じよせき）とは

議会における審議の公正を期するため、議題になった案件と一定の利害関係にある議員を、その審議に参加できないようにすること。



年頭のあいさつ

平穏無事を祈りたい



議長
小林 正志

明けましておめでとうございます。

町民各位におかれましては和やかにお過ごしのことと存じお慶びを申し上げます。

近年は地球規模の気象異変が年々強まっており、昨年は豪雨災害に三度も見舞われ、甚大な被害がありました。人的被害がなかったことは不幸中の幸いと思っております。

防災行政無線が整備となりますが、頻繁に作動することのないように切に願うものであります。

清水寺貫主は世相を表す漢字を「北」と揮毫しました。男鹿半島にはリーダー基地があり、有事の際は標的となりやすく、その東側に位置する本町の平穏無事を祈らずにはいられません。

町民の皆様とともに平和を祈り、更なる議会改革に努め、町の発展と町民福祉の向上を願い、幸多い年となりますようご祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

道の駅 五城目 秋田東北ダイケン*を指定管理者に選定 今後に期待

* 赤倉山荘や道の駅あきた港（秋田市）などの管理実績がある。



町の観光拠点施設である道の駅（悠紀の国五城目）の平成30年度からの指定管理者が決定した。

平成29年8月1日から31日までの公募期間に2社が応募。書類審査と申請者によるプレゼンテーションを経て、公平性や透明性を重視した選定委員会（町内の民間有識者5名）による選定が行われ、これまでの経営の実績から全会一致で㈱秋田東北ダイケンを選定した。

当局ではその答申を受け、12月定例会に㈱秋田東北ダイケンを指定管理者とする案を議会へ上程した。

第3回

議員全員協議会

- 協議案件
・町消防団の再編について
- 報告案件
・五城目小学校改築事業について
・地域公共交通について
・町介護保険事業計画（第7期計画）について

11月16日



再編が予定されている消防団

（佐藤 慶彦）

消防職員不祥事

窃盗容疑で逮捕された当該職員は11月8日で懲戒免職処分、消防長と消防司令4名の管理職5名を訓告処分したとの報告があった。

第4回 臨時会 11月16日

- 提出議案
・町特別職の職員の給与並びに旅費に関する条例の一部を改正する条例制定
- 工事請負契約の締結（町防災行政無線整備工事）
契約金額 2億7,540万円
- 専決処分の承認（第48回衆議院議員総選挙実施経費）
をそれぞれ可決・承認した。

町長・副町長2ヶ月間
10分の1減給

町観光拠点施設の 指定管理者決まる



来年度から指定管理者が変わる道の駅（悠紀の国五城目）

こんなことを審議しました

総務産業 常任委員会

来年度からの町観光拠点施設の指定管理者選定案を審議した。

これまでと同様に、赤倉山荘は(株)秋田東北ダイケン、五城館は(株)あつたか五城目が指定管理者に決まった。

道の駅（悠紀の国五城目）はこれまでの(株)いそら直売会から(株)秋田東北ダイケンに変更となり、平成30年4月から約2週間のリニューアル期間を経て4月中旬新体制での営業を予定している。各施設が利用者にとって充実したものになることが望まれる。

なお、各施設とも指定管理期間は平成30年4月から3年間とする。

災害復旧治山事業は8ヶ所



大四郎沢地区の災害現場

昨年7月・8月の豪雨による災害復旧事業設計委託料が補正された。金額は129万円で、場所は次の8カ所で行われる予定。

〇県に要望中

- ・森山下地区（森山）
- ・大四郎沢地区（内川）
- ・大ナコ地区（富津内）
- ・高田地区（富津内）
- ・川堤地区（富津内）
- ・滑多羅地区（富津内）
- ・落合地区（富津内）
- ・一ノ沢地区（富津内）

排雪場所変更

除雪事業費として3,155万円追加し、この冬の除雪費は7,786万円となる。

昨年度雀館運動公園第三駐車場とした町指定の排雪場所は、今年度広ヶ野橋付近の空き地に変更となった。中学校への通学路でもあり、安全には十分に気をつけて利用されることを望む。



この冬の排雪場所（広ヶ野橋付近）

利用者が増加した 「すずむしクラブ」



手狭となった学童保育施設

こんなことを審議しました

教育民生 常任委員会

共働き世帯にはとてもありがたい低学年の学童保育の場である放課後児童健全育成事業「すずむしクラブ」の利用が増えている。

昨年度登録者人数がおよそ80名であったのに対し、今年度は111名となっている。

1日の利用人数も60名近くに上り、常勤の指導員4名に加え、支援補助員を常時1名以上配置し、指導に当たっている。

学習に使用するテーブルの配置を1、2年生と3年生を別々の部屋にするなど、宿題や自主学習、読書活動に支障が出ないよう配慮しながら対応している。

女性消防団員 2名 入団

このほど五城目町消防団に2名の女性消防団員（団本部付）が入団した。

女性消防団員の任務は、救命（救急）講習会の指導・火災予防の啓発・訓練大会・出初式・消火活動の後方支援などである。

合わせて機能別消防団員も新たに配置する。任務は、火災・自然災害・捜索など災害時に限定された出動であり、団員経験者を想定している。

女性消防団員、機能別消防団員の今後の応募に期待し、地域防炎力の維持を願うものである。



秋田市で初の全国大会

（椎名 志保）

インターネット利用環境が充実

公共施設の※Wi-Fi化が進んでいる。

災害時の避難所となる町民センター、広域五城目体育館、屋内温水プールの3施設合わせて11ヶ所にアクセスポイントが設置され、無料のインターネットの利用環境が整備される。

平成30年4月1日より、使用できるようになる。

Wi-Fi（ワイファイ）とはパソコンやテレビ、スマホ、タブレット、ゲーム機などのネットワーク接続に対応した機器を、無線（ワイヤレス）でLAN（Local Area Network）に接続する技術のこと。

一般質問

8議員が登壇 ただ 32項目を質す

一般質問とは？

一般質問は、年4回（3、6、9、12月）の町議会定例会において行われます。

議案とは関係なく、町政全般にわたって議員主導による政策論議であり、通告性が採用されています。

一般質問をするかしないかは、議員個人の判断によります。

*五城目町議会では、質問者1人につき持ち時間は60分（質問・答弁含む）となっています。

質問者

館岡 隆 議員

- 介護サービス事業の状況
- 行政報告に対して

石川 交三 議員

- 町長の政治姿勢を問う
- 終活支援事業を進めよう
- グラウンドゴルフ場を各地に協働で作ろう
- 子どもの貧困と学校給食費の無償化、生活保護と大学進学・就学支援について

荒川 滋 議員

- 本格的な降雪期を控え除雪について
- 五城目小学校改築進捗状況
- 五城目町産木材・バイオマス利用促進
- 職人の町五城目の復活を
- 朝市plus+の総括と今後の展開
- 町出身偉人のPRにもっと力を注ぐべき

椎名 志保 議員

- 五城目町の将来像について
- 移住・定住対策について
- 五城目小学校改築事業について
- 大槌町への支援について

佐藤 慶彦 議員

- まちづくりと地域活性化支援センターに関して
- 小学校建設に関して
- ふるさと愛郷寄付金の福祉向上分の利活用に関して
- 農地利用最適化推進委員に関して

斎藤 晋 議員

- 町の主産業である、農業・林業の発展を支援すべき
- 町内施設の活用法について
- 町が業者に提出を求める参考見積について
- プロポーザル方式について
- 除雪について

佐々木仁茂 議員

- 豪雨災害の対応と災害未然防止策について
- 農業所得向上について
- 住みたい町づくりについて
- 秋田追分全国大会について

畑澤 洋子 議員

- がん対策をリードせよ
- 発達障害のある児童生徒の学力向上を
- 冬の事故多発箇所の安全対策を

*誌面の関係上掲載できなかった●印の質問については、町ホームページにて議会映像を配信しておりますのでそちらをご覧ください。

あなたにかわって
聞きました

一般質問

介護費用額が県内で 最も高いが対策は

町長 介護予防に努める



館岡 隆

館岡 高齢化率と保険料の推移は

町長 平成27年41・8％、32年45・8％。保険料第6期（27年度～29年度は6,600円）

館岡 他市町村との比較は

町長 男鹿市6,645円、藤里町、三種町、五城目町が6,600円、潟上市6,500円、井川町6,400円。要介護認定率は29年5月時点介護保険事業状況報告で23・5％県内3番目、全国42番目、被保険者一人一月あたり介護費用額は29年5月時点で37,304円県内一番目、全国二番目である。

館岡 一般財源からの繰入れの上限額は。

町長 国の制度設計は財源割

合の目安は給付費総額に対し1号被保険2号被保険者で保険料収入額が50％、国負担22・5％、県負担15％、町負担12・5％。28年度決算額は、介護給付費総額18億5千万円、歳入1号2号被保険者保険料8億2千万円、国負担は5億2千万円、県負担は2億8千万円、町負担は2億7千万円であり、負担割合に対する過剰収入額は、翌年度精算による返還金となる、給付費総額の12・5％相当額が限度

設定である。
館岡 介護保険料の増額傾向を抑制するためには平成30年度からの総合事業に期待がかかる。
町長 地域住民やボランティアなどの助け合い支え合いによる互助の仕組みを地域の中で活性化させ、要支援者に対する効率的な支援などを目指す。介護予防、生活支援サービス事業と一般介護予防事業から構成され65歳以上の全ての町民が対象となる。65歳以



総合事業に期待がかかる

介護保険法 第4条（国民の努力及び義務）

国民は自ら要介護状態になることを予防するため、加齢に伴って生ずる心身の変化を自覚して常に健康の保持増進に努めるとともに、要介護状態になった場合においても進んでリハビリテーションその他の適切な保健医療サービス及び福祉サービスを利用することにより、その有する能力の維持向上に努めるものとする。

上を対象に介護予防自主グループへ活動支援、町内会老人クラブなどへ介護予防教室の実施、水中運動、膝らく、脳はつらつ教室、高齢者サロン、ミニデイサービスなどの活動を支援する。

久保の火災対応は

館岡 町長には何時の時点で連絡が入ったか。

町長 朝方と記憶している。※出火原因はまだ調査中。究明には鑑識などに時間を要する。

消防団の再編成は

館岡 分団の再編成と分団員のスキルアップのために資格取得の指導をするべき。

町長 団員の減少は避けて通れない。自主防災組織との連携を図りながら町の防災について考えていく。

終活支援事業を進めよう

一般質問

町長 全ての町民が最後まで幸せな人生を送れるよう、サポートする体制づくりを進める



石川 交三
(日本共産党)

石川 団塊の世代が後期高齢者となる「超高齢多死社会」を迎える。横須賀市では「エンディングプラン・サポート事業」を実施しており「穏やかに死を迎えることへの支援」をしている。高齢者の葬儀や納骨、尊厳死の意思表示、献体などの終活に係わる問題に行政として取り組む時だ。

町長 終活は「人間が人生の最後を迎えるにあたって行う

様々な準備」を意味する。一人暮らしで身寄りのない高齢者は将来に不安を抱えており、緊急時の連絡や葬儀の手配は重要となる。

亡くなった人に身寄りのない場合、引き取り手のない場合は町の費用で火葬し無縁仏として供養塔に納骨されるが、終活を行う事でこのようなことは回避される。サポート体制づくりを進めたい。

石川 身寄りもなく、経済的にも厳しい状況で、認知症進行や救済を求める術を知らない方々の不安に寄り添った具体的な対応を求めたい。

町長 近所の住民や友人、民生児童委員から生活弱者に関する様々な情報が寄せられる。



埼玉県坂戸市のエンディングノート

町は地域包括支援センターが中心となり「ケース会議」や「ケア会議」で情報を共有し、生活保護や施設入所、介護サービス提供や成年後見人制度の活用などに結びつけている。

石川 成年後見人制度は活用されているか。

町長 制度活用は4名で、相談中が6名、市町村申立て準備を進めている方が3名である。判断能力の衰えた方にとって、財産を守ったり介護や入院などの契約などの場合は大変有効な手段である。

石川 市町村申立の実績は。終活支援も各課連携が必要で、体制構築を求めたい。要はマンパワーが大事で足りなかったら増員すれば良い。

町長 これまで認知症進行や身寄りのない方で3名である。申立対応には相当の労力・時間が必要で、件数も増加傾向にあることから、今後は今ある体制を強化する必要があると認識している。丁寧に対応しながら終活をサポートする体制づくりを進めたい。

国連で採択された「核兵器禁止条約」の評価を問う

石川 皇后陛下の美智子様が生誕日の「お言葉」で、ノーベル賞に関して「平和賞は、核兵器廃絶国際キャンペーン『ICAN』が受賞しました。」とし、大きな意義があったと述べられた。世界中からこの「お言葉」に喝采の声が上がっているという報道があるが政府は禁止条約に賛成していない。

町長 わが町は昭和63年に「非核平和の町」を宣言し、「平和市長会議」にも加盟している。条約参加は国の専管事項であり、政府が責任をもって取り組むべき課題だ。

一般質問

木質バイオマス利活用促進を

町長 費用対効果を見極めて検討していく



町土の80%を占める森林は宝の山



荒川 滋

荒川 平成23年施行の『五城目産木材の利用促進に関する基本計画』に木質バイオマス熱源利用推進がうたわれているが、6年経過しこれまでの検討内容と進展は。

町長 五城目産木材の利用促進の一環として平成二十五年から五城目産木材需要拡大推進事業を実施し、民有林の作業道開設に補助している。木

質バイオマス林地残材は搬出コストに経費がかかることから、県の木質バイオマス有効活用協議会などからの情報をもとに費用対効果を見極めて検討していく。

荒川 五城目小学校改築には地元産木材を最大限に活用すべき。それと、木質バイオマスボイラーを導入し町の特徴

五城目小学校 改築の現状は

荒川 プロポーザル方式により提案された企画により設計業者が決まったが、その提案内容は。

教育長 業者の営業活動に著しく影響を与える可能性があるため技術提案については非公開である。地域と共にある学校についての考え方、子供の環境や安全の整合性、地元産材の利活用などの提案が優れていた。

荒川 広く意見要望を聞くワークショップの予定は。

教育長 平成30年1月から2月の間に2、3回を予定。対象は全町民で広

を生かし、環境教育の教材として活かすべき。

教育長 内部の木質化に向けて率先して地場産木材を利用するよう設計業者と協議する。バイオマス熱源に関しては、各種課題を今後の設計業務の中で総合的に判断していく。

く意見を聞きながら設計業者と協議していく。

荒川 建築スケジュールに変更はないか。

教育長 建築計画提出の関係で着工は平成31年度上半期にずれ込むが、平成32年度に校舎と屋内運動場を完成させる計画に変更が生じることがないよう進めていく。



町民の意見をいかした学校に

町出身偉人のPR に力を注ぐべき

荒川 町出身、高橋（旧姓・渡邊）武子さんの遺品や関係の品は各地から注目されている。五城館『矢田津世子文学記念室』内に常設展示できないか。

教育長 展示内容について関係者の同意が必要であり、更に温度・湿度・照明などの環境整備が必要になる。スペースが適切なのかなどの課題がある。まずは町ホームページの『素晴らしい先輩たち』への掲載に向けて進めていく。

職人の町五城目の 復活を

荒川 時代の流れとともに現在には衰退しているが、町の対策は。

町長 時代の変革とともに需要が大きく減少し現在に至っている。平成27年度から『地域資源統括活用商品開発等支援事業』をスタートさせ時代に即応した商品開発の支援を行っている。今後も、状況に応じた支援や取り組みを行っていく。

町長が思い描く町の将来像は

一般質問

町長 町が発展し続けていることを願う



未来が懸かる総合発展計画



椎名 志保

椎名 各産業での後継者不足に対する打開策は何か。

事業に関心を抱く人材と後継者のいない事業者を橋渡しすることに力を注ぎ、移住・定住につなげるべきでないか。

町長 農業では、集落営農の組織化、法人化の促進など担い手の育成を図り、新規就農者への指導・育成に努める。

伝統産業は、事業の継承や後継者の育成に努める。

商工業では、創業を目指す起業家と後継者不在の事業者を引き合わせるマッチングに、更に取り組んでいく。

椎名 将来町を担う若い世代がまちづくりを語る場を設

け、町民の声を直接聞く機会が必要ではないか。

町長 協働のまちづくり事業の中で「地域を語る会」を実施している。

地域公共交通対策やコミュニティ対策に関する地区座談会は、1月に開催することで調整している。

今後の「地域を語る会」の開催については検討する。

若い世代への 移住・定住対策は

椎名 公営住宅への入居に特例措置を設け、若い世代の住宅支援とすることはできないか。

また、町有地を低価格で、あるいは無償で分譲し、移住・定住につなげることをすべきではないか。

町長 公営住宅には所得などの入居資格があり、若い世代の住宅支援には直結しない。

町有地の分譲については、民間事業者への影響や町の財政負担など、慎重な検討を要する。

小学校設計業者の 決定理由は

学校教育課長 村田弘建築設計事務所は、八幡平中学校、湯沢東小学校など、これまで数々の学校建設の実績がある。

今回の提案では安全面において、特にセキュリティの面や、車と歩く部分の住み分けといったところが優れていた。

椎名 町民も利用する図書館や学童保育の施設をどうするのか。町民センターの活用との兼ね合いが設計にも関わってくると思うが、町の考えはどうか。

学校教育課長 図書室は、町民センターと両方活用する考えである。学童保育施設は、同じ敷地内又は校内の

設置を計画している。学校は学習する施設であり、地域開放部分と明確に分ける考えである。

椎名 小学校建設で雀館地区が文教エリアとして、再び息を吹き返すものと考えている。既存施設の有効活用を強く望むものである。



有効な活用が望まれる町民センター

大槌町への今後の支援は

椎名 大槌町へ町として行っている復興支援米の配布について「いつまで行うのか」といった町民の声がある。

今後の支援のあり方をどう考えているか。

町長 まだまだ復興道半ばという現実がある。復興計画が順調に進み、仮設住宅が解消されるなど、誰もが復興を実感できるまでは支援を継続していく。

一般質問

交流人口の拡大を

町長 都内でファンミーティングを実施する



佐藤 慶彦

移住定住の促進を

佐藤 地域活性化支援センター（以下、センター）を拠点としているドチャベンジャーズの状況は。

町長 県の「先輩移住者アキタライフ発信事業」の委託業務を受けて、首都圏などからの移住・希望者に対する交流イベントを通じ、町への移住推進の取り組みを行っている。

佐藤 センターへの今年度の視察数は。

町長 4月から11月までの8ヶ月の視察件数は33件、視察者数は376名であり、26年度以降最も多くなっている。

佐藤 公民連携の取り組みで、東北で一番視察の多い岩手県紫波町では団体を立上

げ、視察受入れに一名3千円と有料化している。対応する職員の負担も増えており、今後は稼げる公共施設として有料化の検討が必要だ。

町長 現状は、まちづくり課職員2名が対応し、説明と意見交換を行い、施設を案内している。当面は無料に対応していきたい。

佐藤 センターへは視察の件数は増えているが、それを除けば純粋な交流人口は減ってきたように感じる。千代田区でのファンミーティングの他、仙台などでも実施するなど、拡大する必要性がある。

まちづくり課長 まずは2月頃千代田区内でファンミーティングを実施したい。



昨年千代田区で行われたファンミーティング

時代に合った健康づくりを

佐藤 ふるさと納税の福祉分への積立が200万ほどある。その財源を活用し、自治体との連携の実績があるタニタヘルスリンクなど民間と提携し、タニタ健康プログラムなど定期的な体力テストによる高齢者に限らない健康づくりの推進やセミナーの開催を。

町長 タニタヘルスリンクは自治体向け健康増進施策を支援している。様々な取り組みをより効果的に進める上で、企業の先進的なノウハウを取り入れることも必要と考えており、町民の健康づくりの意識・知識向上のため検討していきたい。

佐藤 要介護度の維持・改善につながるスポーツトレーナーによる介護リハビリなど、科学的トレーニングの普及も必要だ。

町長 民間の湖東老健施設では、パワーリハビリというトレーニングマシンを使っての運動指導を行っており、利用者の生活機能の改善などの効果が認められており、町で

も専門職による取り組みを更に充実させていきたい。



トレーニングをする元気な高齢者

公共施設のWi-Fi環境の整備促進を

町長 総務省の無線システム普及事業費補助金制度を活用して指定避難所である町民センター・広域体育館・屋内温水プールの3施設へ公衆無線LANを整備のための予算を12月補正予算に計上した。

佐藤 道の駅や消防署にも必要だ。

町長 来年度以降、有利な補助事業があれば、その中で実施可能か検討していきたい。

杉沢交流センター「友愛館」 を山菜栽培の拠点に

一般質問

町長 栽培支援を継続し、他の山菜などの
栽培支援が可能か協議したい



斎藤 晋

「友愛館」を どう活用する

斎藤 杉沢交流センター「友愛館」を地元の方々の集会場や体力作りのための拠点として活用し、山菜の栽培支援の拠点とすべきである。そのために栽培グループなどに指定管理させるべきである。

町長 現在、友愛館ではシドケの栽培支援を行っており、栽培支援を継続し、栽培技術の向上や他の山菜などの栽培支援が可能か、関係者と協議してゆきたい。

指定管理については、地元の意向を確認しながら今後の利活用に努めたい。



やわらかシドケを栽培中です

町内業者をもっと 大事にすべき

斎藤 町内業者は、町民であり・町民の雇用を生み・税金を納入している。もっと町内業者を大事にすべきである。デザインや特殊な調査など

が必要な参考見積もりに関しては対価を払うべき。

町長 昨年、町が入札により発注した工事は47件、そのうち43件は町内業者に発注した。

指名競争入札を始め小規模工事等についても、町内業者を最優先に工事を発注している。今後も公共工事など町内業者への発注を原則とし、協働の町づくりを進めたい。参考見積もりに対する対価

支払いについては、原則として払わないこととし、特殊な調査などが必要な事案の参考見積もりの依頼の場合は、設計料や基本調査費などを予算措置して業者負担が過大にならないよう対応策を検討させたい。



どんな修理・工事でも見積書は必要です

除雪は 定額制にすべき

斎藤 除雪は作業時間による精算ではなく作業路線の距離・難易度による定額制にすべきであり、作業が不完全の場合は、ペナルティーでやり直させるべきである。

町長 秋田県と同様に県が算出した1時間当たりの単価契約を締結し、作業時間での委託料の支払いをしている。



除雪は路線によって難易度が違う

定額制に関しては、困難であると判断している。

- その他に
- 農林業の発展を支援すべき
 - 特産品特産物の売り上げを支援すべき
 - 6次産業化で町興しを
 - 朝市ふれあい館の活用を
 - 町民センターの活用を
 - 参考見積もりを依頼する理由は
 - 参考見積もりをだした業者は優遇されるのか
 - 小学校設計者選定の為、何故プロポーザル方式にしたのか
 - 設計業者選定に必要な提出書類は公表されないのか
- を質問しました。

一般質問

豪雨災害の対応は

町長 災害査定後に工事を進める



佐々木仁茂

馬場目川の洪水対策は

佐々木 7月・8月の豪雨では、農地・農業関連施設などの被害が甚大となった。特に馬場目川流域の水田への冠水や土砂・石・流木等の流入が多かった。

11年間で3度の被害を受けた農家は、被害による減収は営農継続に重くのしかかり、先行きの不安が募る。一日も早い河川の洪水対策を行って欲しいとの声がある。今後、馬場目川の洪水対策をどのように行っていくのか。

町長 現在、農地の流木処理や土砂除去を進めている。また久保橋から真崎堰頭首工までの地形測量を行っている。工事着手までの間は河川の洲^{すざら}浚いや雑木処理を実施し対応していく。

ゲリラ豪雨への対応を

佐々木 ゲリラ豪雨による洪水の原因の一つは、山の荒廃と中山間耕作放棄地の増大があげられる。現状に対しての解決策は。

町長 山林の多くは、杉の植林地で、針葉樹林は吸水力が弱く保水性に欠ける。山の荒廃は、山林所有者の高齢化や後継者不足で、手入れが出来ないのが原因である。対策としては、県・森林組合等と連

森山下地区の大雨対策は

佐々木 7月の豪雨で、森山下の民家敷地内に大量の泥水が流れ込んだ。今後の被害防止対策は、どうするのか。

町長 県へ、治山堰堤より下の水路整備等について要望し、県単局所防災事業として採択の予定となり、12月定例会に調査設計委託料を計上した。今後、現地を調査し、早期に被害対策を講じていく。



森山下治山堰堤を流れる大量の泥水

農業所得の向上策を問う

佐々木 米の直接支払交付金が来年度から廃止され、収入減は確実となり、新たな制度の下で所得向上を図らなければならぬ。農家の所得向上対策をどのように推し進めていくのか。

携し、間伐促進の啓蒙活動を引き続き行っていく。耕作放棄地は、農業委員会と連携し解決策を講じていく。

秋田追分全国大会を盛り上げよう



大会プログラム

町長 農家の所得向上を図るには、水田活用による直接支払交付金（飼料米、麦、大豆）を活用することが重要である。

佐々木 2019年に迫った「第30回」記念大会を盛り上げる取り組みとして、郷土の誇りである「鳥井森鈴翁」の熱い思いが込められた、「秋田追分」をもっと町民や来町者の方々に知っていただくために、朝市をはじめ観光施設や公共施設でBGMとして流してはどうか。

町長 秋田追分の正しい伝承と、保存及び普及を図ることを目的に大会は開催されているが、各施設の利用状況を考慮しながら、その普及を図る方策として今後協議、検討していく。

日本は世界一の「がん大国」

一般質問

町長 がん教育の体制を整える

煙澤 「世界一のがん大国」は「がん対策後進国」でもある。それは「がんを知らない」からだ。「がんイコール死ぬ」子供から大人まで皆そう思っている。予防・早期発見・早期治療で助かる病気を、よく知る必要がある。児童生徒に定期的にがん教育を、さらに大人のがん教育の推進も必要では。

町長 がんに対する正しい知識の普及と、自ら健康管理できる能力を、子供の頃から身につける事ができるように、がん教育体制を整える。



煙澤 洋子
(公明党)



大川地域、石崎付近の町道

「乳がん自己検診用グローブ」贈呈を

煙澤 女性の11人に1人が乳がんにかかる時代。部位別の女性のがん罹患数は乳がんが1位。40代以降増加傾向にあるが早期発見で治る病気だ。町での検診受診率と罹患数は。自己検診グローブの贈呈で、乳がん検診への関心を高めてはどうか。

町長 乳がんは自己発見でき

	H24	H25	H26
受診率	31.6%	30.4%	35.3%
罹患患者	5人	6人	10人

る唯一のがんで、定期検診に加え、毎月の自己検診が重要である。しこりの発見に効果が期待できると思われ、今後検討していく。

事故多発箇所を安全に

煙澤 ショッピングセンターや五城目高校があるため大川の町道は交通量が多い。中でも石崎のカーブに「よく車が突っ込んでいる」と相談もある。冬期間の安全対策を願う。

町長 道路法に基づいた設計で工事を実施している。冬期間の走行は、スピードを落とし走行してほしいと願っている。

発達障害児童生徒の支援策は

煙澤 発達障害とは「発達しない障害」ではなく「通常よりもゆっくり、あるいは特異的に発達する障害」だ。教育支援の政策も充実してきている。小中学校における教育の専門性の向上・不登校につながるトラブルなど支援体制は万全か。

町長 小学校に学習サポート1名、生活サポート7名。中学校に学習サポート2名、生活サポート4名。共に助け合い支え合う大切さを学ぶ教育の推進で、トラブルや不登校の防止につながっている。教職員と生活サポート職員で合同研修を実施し、小中一貫した支援教育について話し合っている。

教職員は各研修会に参加し、資質の向上に努めている。

陳情・請願

五城目町議会が議決した意見書を各関係機関に提出しました。

採択しました

採択

◆五城目小学校改築事業に伴う地場産木材の活用と地元業者への発注を求める陳情書

五城目森林組合

代表理事組合長 石井 一夫

採択し、意見書を提出しました

採択

◆核兵器禁止条約に署名・批准を求める意見書採択についての陳情

秋田県原爆被害者団体協議会

会長 照井喜代治

採択

◆消費税を10%に増税することを中止することを国に求める意見書採択に関する陳情

秋田県春闘共闘懇談会

代表委員 渋谷 一

秋田県労働組合総連合

議長 三浦 宣人

陳情採択に賛成の議員

椎名 志保 佐藤 慶彦
斎藤 晋 伊藤 正春
佐藤 重信 千田 峯夫
荒川 正己 石川 交三

陳情採択に反対の議員

荒川 滋 佐々木仁茂
石井 光雅 畑澤 洋子
館岡 隆

採 択

◆「介護保険制度の改善、介護報酬の引き上げ、介護従事者の処遇改善と確保を国に求める」意見書提出の陳情書

秋田県社会保険推進協議会

会長 渡辺 淳

採択

◆国民健康保険都道府県単位化に係る秋田県への意見書提出の陳情書

秋田県社会保険推進協議会

会長 渡辺 淳

採択

◆種子法廃止に伴う万全の対策を求める請願

農民運動秋田県連合会

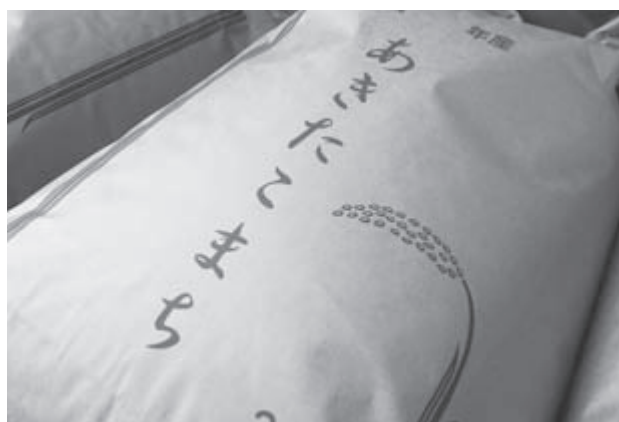
委員長 鈴木万喜夫
紹介議員 石川 交三

採択

◆米の生産費を償う価格下支え制度を求める請願

農民運動秋田県連合会

委員長 鈴木万喜夫
紹介議員 石川 交三



今年から米の生産調整が廃止される

議員研修報告

▼町村運営の手法を学ぶ

研修名 町村議会議員特別セミナー

研修期間 10月5日～6日

研修先

滋賀県大津市・全国国際文化研修所

参加議員 椎名 志保 佐藤 慶彦

▼行政改革の手法を学ぶ

研修名

市町村議会議員研修

地方分権と自治体の行政改革

研修期間 10月30日～11月1日

研修先

滋賀県大津市・全国国際文化研修所

参加議員 斎藤 晋

▼今後の議会運営を考える

研修名 市町村議会議員研修

議会改革を考える

研修期間 11月6日～7日

研修先

滋賀県大津市・全国国際文化研修所

参加議員 斎藤 晋

▼新たな財源確保策を学ぶ

研修名 政策・実務研修

「自治体の財源確保策」

研修期間 11月8日～10日

研修先

滋賀県大津市・全国国際文化研修所

参加議員 佐藤 慶彦

(佐藤 慶彦)



あれ



なんとなつたべが!

平成28年12月定例会一般質問より

問

就学援助の入学準備金支給時期を、早める配慮を。

答

規則の改正を行い、入学前に支給する方向で進めていく。

現在

就学援助規則の改正を行い、必要保護児童生徒の新入学用品費を入学前の2月下旬から3月上旬にかけて支給する予定である。

問

公共施設全体の利用料は適正か。

答

検討したことがなく、早急に方針を整理したい。

現在

公共施設等総合管理計画の個別施設管理計画について策定作業中であり、今後公共施設利用料金の適正化方針について整理する予定となっている。

問

公共交通体制を見直し、近隣市町村と協力し循環バスなどを考えては。

答

南秋田郡内の町村で、湖東公共交通対策研究会を立ち上げ、広域での交通再編を検討する。

現在

五城目町、八郎潟町、大潟村の3町村で組織する南秋地域公共交通活性化協議会を平成29年4月11日に設立し、広域公共交通網形成計画を策定するため、3町村における住民や学生を対象としたアンケート調査を実施する。そして3町村間を結ぶ新たな地域公共交通ネットワーク再編に向けて協議を進めている。



ネットワーク再編に向けて協議中

問

食品ロス対策に、フードバンク設立を。

答

町にフードバンクで生活支援をする活動はないが今後検討する。

現在

近隣市町村の動向を見ながら今後必要性について検討したい。

問

いじめ対策は、どのようにしていくのか。

答

人権・人格の否定につながる行為で許されず、基本方針に基づき、未然防止と早期発見に努める。

現在

いじめに関する調査を定期的に行うなど、基本方針に基づき未然防止と早期発見に努めている。

問

既存の子育て支援の周知を。

答

「結婚・子育てガイドブック」を作成し、情報提供の強化を図る。

現

内閣府による地域
少子化対策重点推進事
業を活用し、幸せに出
会い子どもを生み育て
るための情報を提供す
る。

ガイドブック「ARU
CO」を作成し、子育
て世代の方々などに配
布している。

るため、「ごじょうめ

子育て・出会い応援
ホームページ」を作成

し公開するとともに、

ガイドブック「ARU」

CO」を作成し、子育

て世代の方々などに配

布している。

問

朝市plus+の検証と来年度に向けての展望は。また、予算化の処置を。

答

朝市振興委員会で協議
後、必要な取り組み・
体制を検討する。

現在

朝市振興委員会では、アンケート結果を含めながら協議を行い、朝市plus+の取り組み支援を予算化し今年度実施している。

(佐々木仁茂)

開かれた議会へ HPが充実



新たに掲載された陳情などの作成例

(佐藤 慶彦)

五城目町議会





子育てカフェほっぺっぺ

『扉を開けて』
とびら



代表 渡邊 美穂子さん(東磯ノ目)
(後列 右端)

◆どんな活動をしていますか。

渡邊 現在はお母さん仲間の関愛美さんと2人で、月2回、ケアセンターの一室で、0、1、2歳の未就園の親子を対象に居場所作りの活動をしています。

◆大切にしていることは。

渡邊 ここに来れば忙し



◆今後の活動は。

渡邊 バス遠足や小さな小さな音楽会など、楽しい企画を盛り込みながら活動を継続していきたいです。お家で子育てしているママたち、初めての扉を開けて「ほっぺっぺ」に遊びに来てください。

(椎名 志保)

がんばってます

『音の楽しさを味わえました』



五城目小学校6年
五城目小学校メロディクラブ
渡部 日菜さん
(水 沢)

メロディクラブは3年生から6年生までの歌の好きな13人で活動しています。今年には県の合唱コンクールに出場し、銀賞をいただくことができました。地域の行事や中学校の定期演奏会などで歌う機会をいただき、クラブ一同大変うれしく思っています。

私がクラブに入ったきっかけは、4才から習っているピアノの先生が合唱指導をしていることと、4つ上の姉がメロディクラブで頑張っていたからです。パートごとに練習をしたあと、みんなで合わせた時にきれいなハーモニーを耳にした瞬間、全身に歌声が響いてゾクゾクします。

4年間、メロディクラブで活動してきて、みんなで作る音の楽しさを味わうことができました。また、聴いてくれる人に想いが伝わるような歌い方も教えてもらいました。この経験は、大きな宝物になりました。

音楽の好きな小学生の皆さん、是非メロディクラブで歌ってみませんか？



(荒川 滋)

編集

後記



あけましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶びいたします。

改選後、8回目の広報編集。この2年広報作りの研修会や他町村の議会だよりを研究し、町民に読まれ議会活動が伝わるよう取り組んできた。意識してページ数を増やし、見出しに注意し、見やすいようスペースを空け、写真やグラフを増やした。

町ホームページでは昭和34年以降の町広報を見ることが出来るようになった。当時のまちづくりの資料として大変貴重だが白黒で活字だらけであり、時代の移り変わりを感じる。

今後も開かれた議会に向け、「みんなの町議会」の充実に努めて参りますので、一層のご愛読をお願い致します。

広報編集委員長
佐藤 慶彦